

メツセーチを記した名刺に添えて咲きたてのオホヤマレンゲの清々しい一花が添えてあつた事も忘れない。後できくとこの苗はもう50年近く前に故遠藤吉三郎博士から送られたものだという事であつた。とも角此の庭を見る為に Sweden の王様も何回かここを訪問されたとの事である。再び主人に左様ならを告げて停車場へ赴く。この令嬢はいつも客の案内をされるらしく世界各地から此の地を訪れる藻類学者を好く知つていて、停車場で汽車を待つ間その噂等をした。聽て汽車が来たので令嬢に別れて Dr. LUND と二人でコペンハーゲンに帰り今度は Dr. LUND の宅に行く。夕飯に招待されているのである。夫人は已に帰宅して用意をして我々の来るのを待つて呉れた。奇麗なアパートで気持の好い住居である。話によるとコペンハーゲンも御他聞にもれず住宅難でこの様なフラットを借りるにも仲々容易でないと言う。夫人心尽のおいしい料理の御馳走になり食後苺が出たので今朝町で見た大粒の苺の話をした処、近頃どんどん大きいのが出る様になつたが余り大きいのは見た目は好いが味は余り好くないとの事であつた。食後又シェリー酒等のみ乍ら亡くなつた Prof. ROSENVINGE 其他各国藻類学者の噂、パリーの植物学会の話、先年出席したエチンバラの第一回国際海藻専門討議会の話、それからつい先日帰つたスペインへの旅の話等をしている内に大分夜も更けたので別れを告げ宿に帰つた。然し空は未だ全くは暗くはならない。丁度夜明け前の様に彼方の空はうす明るい。

日本を發つてから僅か数日、二十数年も互に相見なかつたなつかしい人々に会い、古くにならんだ土地をふむ事が出来て過した楽しい一日は今となると又夢の様な気がしないでもない。 (北海道大学理学部植物学教室)

北米南加大學の Allan Hancock Foundation に於ける海藻研究廢止さる

Pacific Science Association の太平洋植物学委員会に属する藻類小委員会の最近の報告(1955年10月11日附發送の小委員会第1報)によると、表題の研究所は今まで活潑に行われていた海藻の研究を、他の海産生物研究の大部分と共に、打ち切ることになつたことは甚だ遺憾であり、Dr. DAWSON のメキシコ沿岸の海藻フロラの報告も完結を見ないことになるのは最も不幸なことであると記している。かつて同博士来道の際、HANCOCK 氏が近頃テレビジョンに凝つていて海洋生物の研究は将来どうなるか心配だと洩らしてお

られたことと思ひ合せて愈々打ち切ることになつたのかと残念に思ふ次第である。HANCOCK 所長は老齡のため昨年7月1日で引退された筈で、その後、研究所の機構に変化が起きたのであろう。(時田 郁)

Dr. ELENA S. SINOVA 女史(ソ連)の逝去

レニングラードの科学院植物学研究所隠花植物部門に属して戦前まで海藻の研究を活躍に行つておられた Dr. ELENA STEPHUROFNA SINOVA 女史とは、研究地域が近い関係上、筆者は早くから文通し論文及び標本の交換などを行つていたが、戦争と共に文通もとだえてしまい、終戦後女史の消息が心にかかつていたところ、1955年暮、Miss A. D. ZINOVA という未知の婦人から自著のアカデミー出版海藻教科書2巻を贈られたので、同姓であるし SINOVA 女史の消息を知りたい旨を礼状に書き加えておいたが、最近その返辞があつた。それによると SINOVA は自分の伯母で且つ教師であつて、伯母は戦争の最中、1942年に、当時閉鎖されていたレニングラードで死亡したとのことである。ここに SINOVA 女史の逝去をお伝えし心からの弔意を表するものである。A. D. ZINOVA 女史は同じ研究所に属して、現在、樺太と千島の海藻を研究中であるという。上記教科書巻末の文献の中に、白海、ムルマン海、あまのり、だるす、べにふくろのり、などに関する自著6篇をも列挙している。(時田 郁)

新 著 紹 介

岡 村 金 太 郎 著

日 本 海 藻 誌 第 二 版

本書は周知の如く昭和11年発刊以来我国海藻学の宝典として我近海の花藻研究調査に際しては不可欠の書であることは述べる迄もない。然し甚だ残念な事には其の後第二版の刊行が後れていた為入手の法なく海藻学界に於ては非常な不便が感ぜられていた。併し此度愈々その第二版が刊行の運となることは誠に喜びに堪えない。此の第二版刊行の後れた原因に就ては其の責筆者に存する事が尠くないので、此処に少しく其の間の事情を述べておき度いと思ふ。

願れば既に数年以前になるが発行所内田老鶴園は本書の再版発行を企画、著者の嗣子岡村一郎氏と共に筆者に、かねて故岡村先生との御話合による本書の追補と共に刊行いたし度き旨の話があり、其の際の相談により再版は初版其の儘とし増補の部は全く別冊として同時に刊行、以て初版の所有者の便をもはかる事とした。処が筆者其の後身辺多忙で増補の部遅々として進行せざる為遂に此度再版の部を先ず刊行、増補の部は極力早くに之を